

桃咲く里

佐久市立平根小学校

学校だより7月号

令和7年7月23日

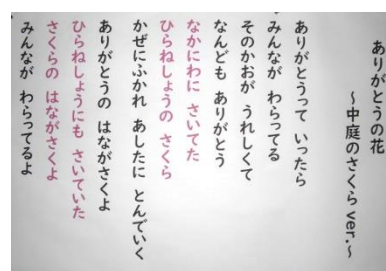
文責：教頭 酒井 直治

「桜とお別れ」

7月3日(木)、朝の時間に中庭で桜とお別れ会が行われました。会に先だって、児童たちは桜に寄せるメッセージを書いて展示しました。「いやなことがあった時に桜を見ると心が晴れたよ」「子どもたちがけがをしないように夜たおれたんだね」「長い間おつかれ様です。天国からも私たちを見守っていてね」と桜に寄せる個々の思いがメッセージから感じられました。春には花びらが舞い、心躍らせてくれ、夏には木陰を作って涼を生み出し、気持ち良い休憩場所を作ってくれました。秋には落ち葉遊びをしたり、焼き芋作りに枝や枯れ葉を使ったりし、冬は寒さに耐え忍び、時には雪遊びの相手となってくれた桜。子どもたちにとっても思い出がいっぱい詰まった桜だったことと思います。

お別れ会は児童会三役が中心となって会を進め、児童会長と6年代表児童2名が桜の木に寄せる思いを発表してくれました。「命ある桜の木が突然倒れると思っていなかった。ずっと見守ってくれた桜の木を何かしらの形で残していきたい」「春には花を咲かせ、夏には木陰となってくれた桜がなくなると切ないですが、忘れることはありません」「入学したころは休み時間も夢中になって桜を見ていたけど、学年が上がるとともに見る機会がなくなっていった。木が倒れたことを聞き、もっと見ておけば良かった」と思いの深さが感じられるメッセージでした。その後、学年ごとにベランダから呼びかけをし、全校で「ありがたいの花(平根小 version)」と校歌を歌ってお別れをしました。

7月5日(土)、どのくらい材木として残しておけば良いのか、長さや太さも含めて事前に業者の方と打ち合わせをしてから桜を切ってもらいました。重機を使って上から切り落とし、落とす方向や倒す角度を調整しながら、手で幹を押して折り倒していきました。最後は根元の脇から生えているひこばえを丁寧に地中に埋め、切り株に薬を塗って終わりとなりました。ひこばえが生長し、何十年後かに花を咲かすことを願って、子どもたちと一緒に中庭の桜を見守っていこうと思います。



「平根小の子どもたちや自分のために ～職員研修の様子から～」

6月29日は今年度2回目の職員研修日でした。まず、永渡教諭が講師となり、Googleに入っている「Canva(キャンバ)」というアプリの使い方を研修しました。テーマを入力すると授業や教材作成に生かせそうなテンプレート、スライド、動画などをAIが考えて作成し、いくつか候補を示してくれるものでした。時代が変わっていくのを実感するとともに、私たちもアップデートしていく必要性を感じました。

次は、地域研修で溪徳寺に伺い、地域の歴史や文化について住職さんからお話をお聞きして、授業につなげられそうなのを探ってきました。

7月9日(水)には、「みらいをつくる日」という名のもと、東中、東小の教職員が平根小に来校し、授業や子どもたちの様子を参観していただいたり、意見交換をしたりしました。変革の多い時代を生きていく子どもたちがどんな力をつけていけば良いのか、中学校区の教職員で集まって考え合う良い機会となりました。

その他にも、水泳の授業が始まるにあたり、消防士の方を講師にお招きして心肺蘇生法やAEDの使い方を中心とした救命法講習会を行いました。また、佐久警察署からスクールサポーターの田中さんをお招きして、交通事故を起こさないために自家用車を日頃点検しておくことの大切さや、点検箇所を具体的に教えていただきました。そして、飲酒運転に起因する事例や佐久管内で起きている児童の問題行動などについてもお話をお聞きしました。約1ヶ月間の夏休みが始まります。平根小の子どもたちがトラブルに巻き込まれないよう、注意喚起を学校でも図っていききたいと思います。



救命法講習会



Canva 研修



地域研修



みらいをつくる日



飲酒運転防止研修

※次号は9月下旬に8、9月号として発行いたします。ご承知おきください。